

3. まとめ

3.1 空間 γ 線線量率

- (1) 空間 γ 線線量率について、最大値、最小値、平均値等を算出するとともに、その変動範囲及び変動原因について解析を行った。その結果、平成18年1月から6月の調査期間における空間 γ 線線量率の変動範囲は、過去3年間の調査結果と同程度であった。
- (2) ほとんどの変動原因は、降雨や降雪による影響であると考えられ、人工放射性核種の影響は認められなかった。

3.2 大気浮遊じんの全 α ・全 β 放射能濃度

- (1) 大気浮遊じんの全 α ・全 β 放射能濃度及び全 β /全 α 放射能濃度比の最大値、最小値、平均値等を算出するとともに、その変動範囲及び変動要因について解析を行った。その結果、平成18年1月から6月の調査期間における大気浮遊じんの全 α ・全 β 放射能濃度の変動範囲は、過去3年間の調査結果と同程度であった。
- (2) 大気浮遊じんの全 α ・全 β 放射能濃度の変動原因は気象によるものであり、人工放射性核種の影響は認められなかった。